

子供の自主性を育み、
家庭学習の習慣化を図る

家庭学習の手引き

中学生版



“七ツ森の賦”（日下 常由 作）

大和町教育委員会

中学校1年生

めあて 試行錯誤を繰り返し、自分なりの学習方法を見つけて勉強する

学習時間の目安：2時間程度（宿題・課題1時間＋自主学習（学習塾や家庭教師等を含む）1時間以上が理想）

中学校2年生

めあて 将来のことをイメージし、中長期的な計画を立てて勉強する

学習時間の目安：3時間程度（宿題・課題1時間＋自主学習（学習塾や家庭教師等を含む）2時間以上が理想）

中学校3年生

めあて 進路希望の実現を目指し、自分のために勉強する

学習時間の目安：4時間程度（宿題・課題1時間＋自主学習（学習塾や家庭教師等を含む）3時間以上が理想）

家庭学習の心がまえ

【その1】「勉強」するのは何のため？

「勉強」するのは、自分自身の将来の可能性を広げるため、「自分のため」です。小学校からの勉強が中学校での学習の土台となり、中学校で勉強したことが高校の学習の土台となって、最終的には将来希望する仕事に就くために必要な知識（場合によっては、「免許」や「資格」）につながります。すなわち、今がんばって力を蓄えることが、「職業選択の幅を広くする」ことに大きく影響します。

【その2】毎日の家庭学習を定着させよう！

宿題や授業の予習や復習等の家庭学習が、学習の理解度や定着に大きく影響することが分かっています。中学校では部活動があるため、帰宅後の時間の使い方が小学校の時より大切になります。また、睡眠時間を8時間確保して、平日携帯・スマホの使用時間が1時間未満で家庭学習を2時間以上行っている生徒の学力が高いということも分かってきました。自分で帰宅後や休日の時間の使い方をしっかりと決めて生活することが大切です。

【その3】分からないところはそのままにしない！

漢字や計算等、小学校の学習で苦手だったところを分からないままでは、中学校の学習を理解することが難しくなります。テストの結果などから自分の力を分析して、苦手教科の分からなくなったところに戻ってやり直すことが必要です。家庭学習で宿題や課題をするのはもちろん、どのように自主学習に取り組んだかでも差がつかます。分からないことがあれば、先生に相談してみましよう。

【その4】受験対策は授業理解が基本！

受験勉強は特別な勉強ではありません。受験問題の約7～8割は2年生までの学習内容です。毎日の授業の準備を整え（＝予習）、授業をしっかりと聞き、授業で勉強したことを家で繰り返す（＝復習）ことが大切です。授業で配付されたプリントや板書ノート、定期考査や実力テストを有効に活用して理解を深めましよう。特にテストは、繰り返し問題を解いた後保管しておくこと、3年生で役立つ「問題集」になります。また、基礎基本が定着するように、その次の段階では応用問題が解けるように、各教科とも3ヵ月くらいのスパンで計画して、学習に取り組ましよう。

【その5】自分に合った学習方法を確立しよう！

どの教科に比重をかけるか、どんな方法で勉強すればよいかは「十人十色」です。自分の学習状況を分析して、できるだけ早く自分に合った学習方法を見つけることができれば、それだけ自分の力を伸ばすことが

できる期間も長くなります。できるだけ早い時期に、自分の得意不得意教科や分野を理解して、自分なりの学習方法を確立しましょう。

【その6】努力したことが成果につながるような学習方法を確立しよう！

音楽を聴きながら、テレビを見ながらの「ながら勉強」は、勉強したことが定着しないということは以前から分かっていることです。最近、スマホをそばに置いてLINE等に反応しながらの「ながら勉強」も問題になっています。さらに近年、よく勉強してもよく寝ても、3時間以上スマホやゲームをすると、その努力が無駄になってしまうということも分かってきました。自分自身をコントロールできる強さをもって、努力することが大切です。

【その7】3年生になったら、進路スケジュールを立てよう！

3年生に進級すると、自分の進路決定まで残り8ヵ月です。「受験勉強は部活動を引退してから」ではすでに遅いです。自分の力で自分の道を切り拓くために、高校入試、三者面談、志望校の決定に向けて、逆算して計画を立てて努力をしていきましょう。

具体的な家庭学習の方法

授業で出された宿題や課題が最優先

各学年共通

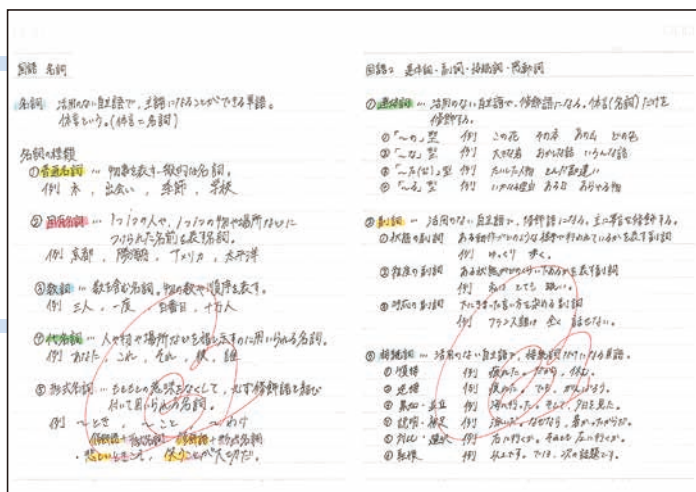
国語

(予習)

- ①教科書をすらすら音読できるようにする。
 - ・新出漢字や読めない漢字の読み方を調べる。(⇒漢和辞典の活用)
- ②意味が分からない言葉を調べる。(⇒国語辞典の活用)

(復習)

- ①授業で勉強した内容を確認する。(⇒学習ワークの活用)
 - * 問いの指示と答え方に慣れる。
- ②書けない漢字を練習する。
 - * 言葉の意味を理解し、文章の中で正確に使えるようにする。



(自主学習)

- ①各自で準備した問題集に取り組む。
 - ・1回目は自分の力で解く。
 - ・2回目は教科書や参考書、辞書やノート等を見ながら解く。
 - ・3回目は模範解答と照らし合わせながら、正答を確認する。
 - * 答えは直に問題集に書き込まないで、別のノートに書くこと。繰り返し解くことによって理解し、類似問題に対応できるようになる。

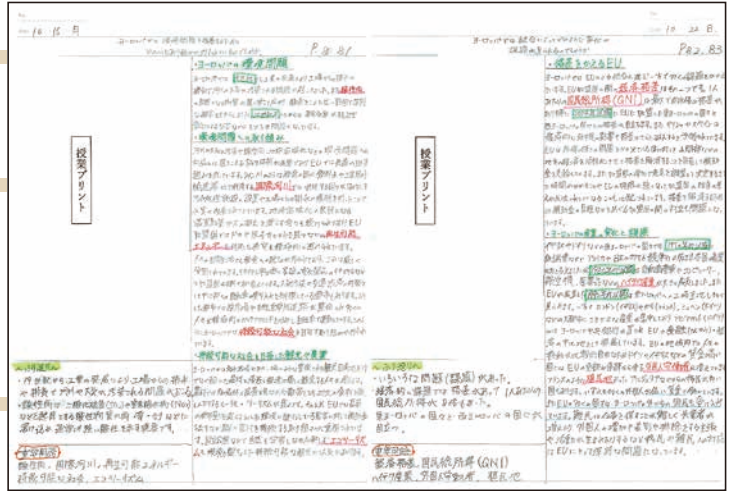
- ②新聞のコラムを読んで、ア…160～200字で要約する イ…160～200字で自分の考えを書く練習をする。(時間は各15分程度)

社会

- ①次の授業の範囲の教科書を読んでおく。

- ①授業のノートを見ながら、教科書の内容を確認する。
- ②(教科書やノートを見ながら)ワークを整理する。

- 地理 ①地図帳などを手元に置いてニュースなどで地名が出たらすぐ調べる。
- 歴史 ①自分でオリジナルの年表をつくる。
②1週間の授業内容を自学ノートに整理する。
③すでに学習した内容を復習し、問題集等で定着度を確認する。
- 公民 ①教科書をよく読み、用語は何度も書いて覚えて説明できるようにする。
②新聞やニュースの出来事と照らし合わせ、授業で学習した内容を関連づける。

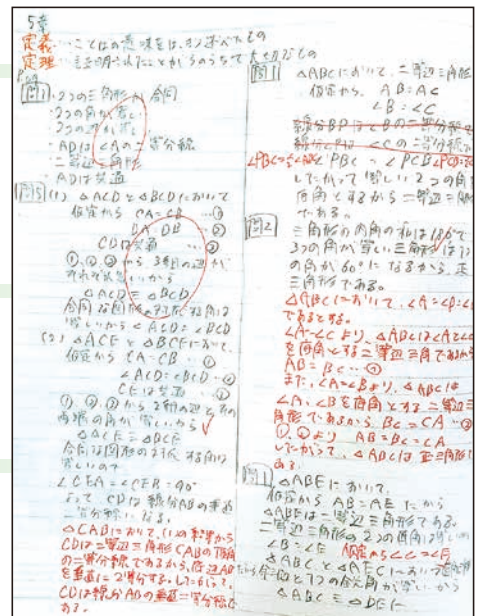


数学

- ①教科書を読み、新しく出てきた用語、記号の意味を確認する。
- ②教科書の例題やワークブックの問題を、教科書を見ながら事前にやってみる。

- ①教科書の例題やワークブックの問題をもう一度解き、理解しているかを確認する。
⇒間違えたら、正解するまでやり直す。

- ①問題集を使い、できるだけたくさん問題をなるべく速く解く。
*すばやく、正確にできるよう、毎日少しずつノートに練習する。
*関数は常に【式 $y = \dots$ 】 \Leftrightarrow 【グラフ】 \Leftrightarrow 【対応表】の3つを関連づけて学習する。
*図形は図を描き、角度はおよその角をイメージしながら解く。特に30° 60° 90° より大きい小さいか予想することが大切。



理科

(予習)

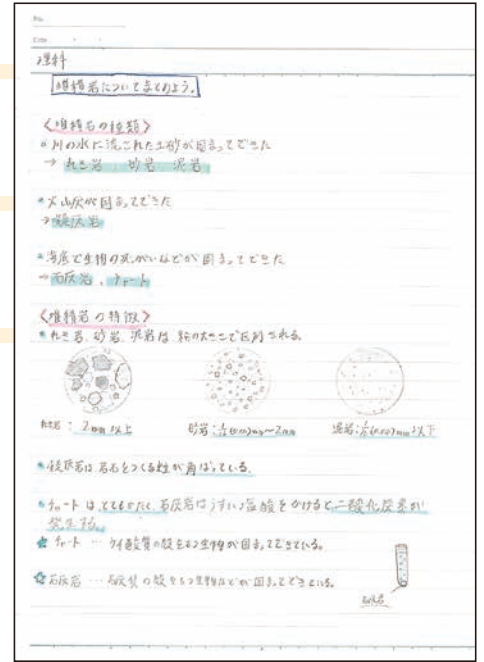
*基本的に必要なし。

(復習)

①その日の授業で板書した内容をもう一度書く。

(自主学習)

- ①学習ワークや問題集で、学習した内容の問題を解いて、理解度を確認する。
特に、
- 1年生 「水溶液や濃度」「密度」
 - 2年生 「化学反応式」「磁界」「飽和水蒸気量と湿度の関係」
 - 3年生 「イオン」「仕事」「遺伝」でつまづくことが多いので、注意する。できない問題があれば、教科書や参考書等を見ながら自学ノートを作って復習する。



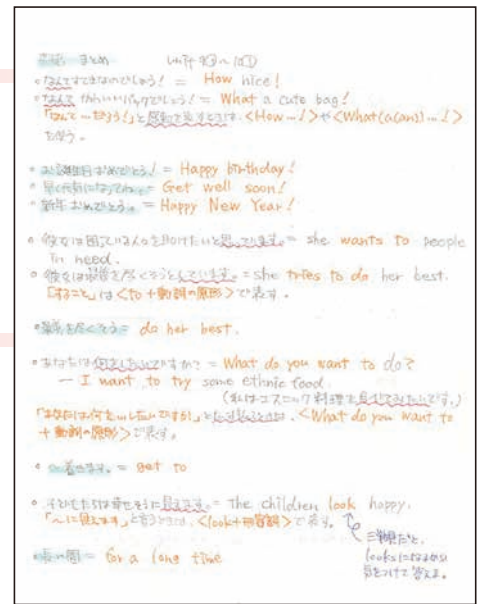
英語

(予習)

- ①新出単語の意味を調べる。
*習った単語で読めないものは印をつけて、課題をもって授業に臨むようにする。
- ②教科書の本文をノートに写し、授業で分かったことを書き込めるようにしておく。

(復習)

- ①教科書をすらすらと読めるまで音読する。
②新出単語や重要な基本英文を繰り返し書いて覚える。
③授業の学習内容を、学習ワーク等の問題を解いて確認する。
④文法の復習や長文読解の問題に取り組む。
⑤学習した文構造を使って、自分のことや身の回りのことを伝える文を書く。



(自主学習)

- ①これまでに学習した語句（単語や連語）、基本文を繰り返し書いて覚える。
②英→日、日→英の形で語句や基本文が身についているか確認する。
③いろいろな形式の問題を解き、重要な文法について理解を深める。
④英語の音楽を聞いたり映画を字幕で見たりして、英語の音声に慣れる（リスニングのため）。

受験勉強（特に3年生）として

- ①1年生からの定期考査や実力テストの問題を解く。
②問題集等を使い、1～3年生（習ったところまで）の問題を、できるだけたくさん解く。
③自分が受験する高校の過去の入試問題集をやってみる。
⇒間違えた問題は、教科書やノートを見ながら正解するまでやり直す。

家庭と学校とが協力し合って 子供の『学ぶ力』を育てましょう

- ◎ この「家庭学習の手引き」は、学校と、お子さん自身やご家族の指針となるものとして作成しました。
- ◎ 各学校では、これをもとに実態に合わせた指導をしていきます。必要に応じて、先生と相談しながら、協力して取り組んでいきましょう。

子供の『学ぶ力』はよりよい生活習慣と家庭学習から育ちます

教育の原点は「家庭」にあります。子供の教育は家庭から始まり、子供たちは、家庭での温かい関わりや体験を通して多くのことを学び、たくましく成長します。実際に、ご家庭で認め励まされている子供たちには、自分に自信を持ち、積極的にあらゆる学習に取り組んでいます。

また、近年、睡眠時間やスマホやゲーム等の利用時間が学習の定着と関係があることが分かってきました。子供たちが自分自身で時間の使い方を考えて実行する自己管理能力を高めることが大切だとされています。このように、「学ぶ力」を育てることは、もちろん学校教育の重要な役割ですが、家庭での保護者の関わり方によってもその育ち方は大きく変わります。

下記の図のように、家庭（保護者）と学校（教師）とがよりよい生活習慣と「家庭学習」を通して協力し合うことが、子どもたちの「進んで学ぶ力」と「心身の健康」を育てていくのではないのでしょうか。

- 生活のリズムを整え、(睡眠時間8時間確保し、スマホ利用を1時間以内に抑えて)決まった場所・決まった時間で学習に集中できる環境を！
- 認め、励まし、対話のある温かいふれあいを！



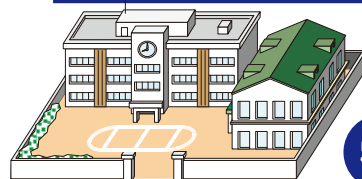
家庭

進んで学ぶ力



心身の健康

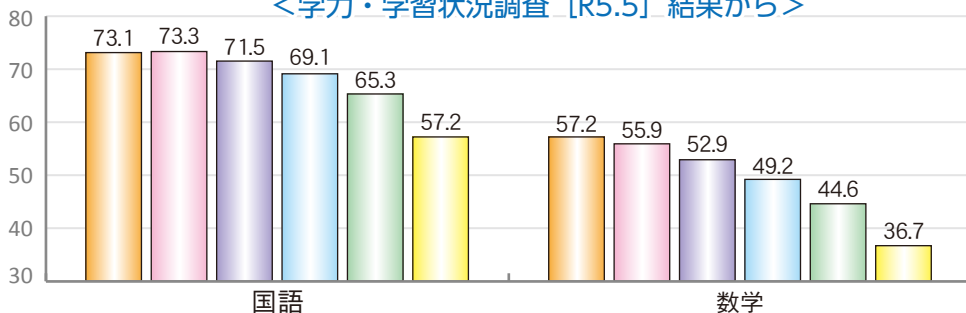
- 基礎学力を付け、学び方を教え、主体性を育てる学習指導を！
- 子供の良さを生かした家庭学習の提案を！



学校

平日の学習時間と平均正答率 (中学3年)

<学力・学習状況調査 [R5.5] 結果から>



- 3時間以上
- 2時間以上, 3時間より少ない
- 1時間以上, 2時間より少ない
- 30分以上, 1時間より少ない
- 30分より少ない
- 全くしない

睡眠時間を8時間確保し、スマホ利用を1時間以内におさえることが、よりよい生活習慣と家庭学習の習慣につながります。学校とご家庭が共に協力し合って、子供たちの自己管理能力を高めていくことが大切です。